

オペレータ不足が深刻化する中、ICTの力で若手活用の道を拓く。



経験が浅くても使いこなせる、優れた操作性に感動

いま現場は様々な難題に直面している。特に少子高齢化社会が進展する中、若手オペレータの確保は難しく、それに伴う全体的な人材不足も深刻化する一方だ。高橋芝園土木も同じ悩みを抱えていたが、「ICTの力で人手不足を解消できるのではないかと思います」と話すのは同社の専務取締役 渡邊直也さん。試験的に現場で実機を稼働させたところ、「経験が浅い若手でも、熟練のオペレータと変わらない工事が行えたので驚きました」。恩恵を受けたのは若手だけではない。ベテラン社員からも賞賛の声が挙がった。「今まで培ってきた精度とスピード、技術をより活かせると感じたようで『ぜひ（ICT建機を）導入してほしい』と頼まれました」と渡邊さんは語る。



茨城県
(株) 高橋芝園土木様

緑化のプロフェッショナルとして、土木工事、造園工事、芝生産・販売、緑化メンテナンスなどに取り組む。今回の堤防強化工事ではICT建機を駆使して建設現場を取り巻く数々の課題に立ち向かった。

専務取締役 渡邊直也さん

従来型の作業に比べ、3～4割の工程短縮を実現

渡邊さんによると、ICT建機を導入した堤防強化工事では、従来の工事より3～4割の工程短縮に成功したとのこと。さらに、「もう一つ工事を依頼されたのですが、ICT建機を使えば現在の人員でもいけると受注しました。そちらも予定の工期内で工事が終わる見込みです」。ICT建機への期待はさらにふくらむ。「現場で稼働するスタッフが少なくて済むということは、事故の確率も自ずと減ります。また、若手のモチベーションアップにもつながります」と渡邊さん。実際にオペレータ歴1～2年のスタッフにも機械の操作を任せている。「築堤の段切り作業をやらせてみたら、自分が仕上げたという達成感を味わったみたいで、『また乗ってみたい』と話しています」。ICT建機は様々な革命を現場にもたらしたようだ。

